

# 萩まちじゅう博物館構想

改定版

～萩の“おたから”を活かした協働による  
まちづくり・観光地づくり～



令和2(2020)年10月

山口県 萩市

# 目次

第1章 萩まちじゅう博物館構想の改定にあたって .....	1
第2章 構想の概要と基本理念 .....	3
第3章 構想を実現させるための取組 .....	8

## 基本方針

おたからの再発見・保存・活用・魅力発信 .....	8
調査・研究による価値の発見	
展示、情報・魅力の発信	
モニタリング、自然環境・景観保全による魅力の維持	
おたからの新しい活用	
おたからを通じた多様なコミュニティの形成・活動の推進 .....	10
行事、移住・定住等による交流の場の創造	
ICTによる利便性を活かした交流の推進	
各種ツーリズム・体験観光の推進	
交流施設としての民間施設の活用	
おたからを活かした経済活動の推進 .....	12
おたからのブランド化	
経済的価値の創造	
地域資源の付加価値化	
観光地経営の推進	
おたからを活かす人材の育成 .....	14
生涯学習を活用した人材の育成	
コーディネーターの育成・確保	
おもてなし人材の育成	
伝統文化・地場産業の後継者の育成	
第4章 構想の着実な推進に向けて .....	16

# 第1章 萩まちじゅう博物館構想の改定にあたって

「萩まちじゅう博物館<sup>※1</sup>構想」は、平成16（2004）年の萩博物館開館を契機に、まち全体を屋根のない博物館と見立て、広く存在する“おたから<sup>※2</sup>”を保存・活用した取組として、萩市のまちづくり、観光地づくりを担ってきました。

しかしながら、構想策定以来15年以上が経過し、その間、広域合併による新萩市誕生、急速に進む人口減少や少子高齢化など私たちを取り巻く社会環境は大きく変わりました。また世界遺産登録や日本ジオパーク認定といった新たな魅力が加わりました。このような状況下において、持続可能な地域づくりのためにも“おたから”をより一層“活かす”取組が重要となってきました。

平成30（2018）年7月には、萩市の将来像やまちづくりの方向性を市民と共有し、市民と行政が一体となって進めるまちづくりの指針として、「萩市基本ビジョン」を策定しました。

このビジョンに掲げる『暮らしの豊かさを実感できるまち』を実現するためには、萩市が全国に誇る自然・文化・産業・歴史などを活用したまちづくりを進めていくことが必要です。

そこで、基本ビジョンや現状の課題に対応するため、本構想を改定し、より一層深化させるとともに、地域産業振興構想やひとづくり構想と連動させた新しい展開を図ります。

## 萩まちじゅう博物館のイメージ



※1 萩のまち全体を屋根のない一つの博物館としてとらえ、そこにあるおたからを活かした、協働によるまちづくりを進めること。

※2 歴史的まちなみや豊かな自然景観、伝統ある地場産業、四季折々の花や旬の味覚など、地域や暮らしの中で大切に育まれてきた後世に残したいと思う「もの」や「こと」。

# おたから



まちじゅうに広く存在する萩の“おたから”は、自然・文化・産業・歴史等に分類され、その一つ一つに人が密接に関わるなど、私たちの地域や暮らしの中で息づき、固有の物語（ストーリー）を持つ。

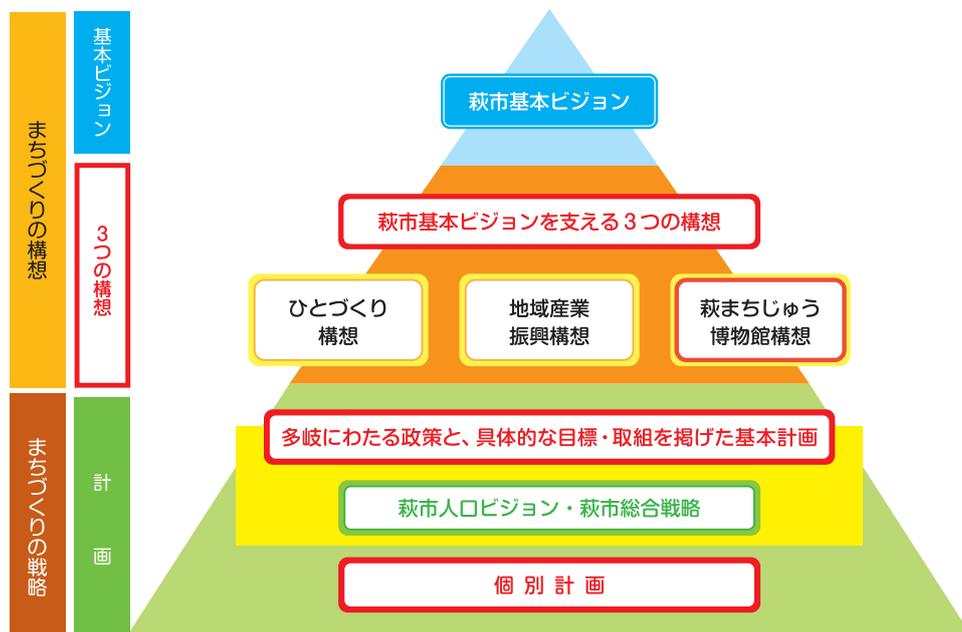
	一般例	萩の例
自然のおたから	海、島、山、河川、湖沼、森林など	日本海、阿武川、須佐ホルンフェルス、長門峡、ひまわりロード、東鳳 <small>ほうほう</small> 山、指月山、椿群生林、松の古木など
文化のおたから	町並み、建造物、古墳、生活文化、祭りなど	西堂寺六角堂、萩往還、明木市・佐々 <small>ささ</small> 並市の町並み、武家屋敷、長屋門、石垣、土塀、住吉祭り、天神祭り、お茶など
産業のおたから	地場産業、伝統工芸、鉱山跡、農場など	平 <small>ひら</small> 蔵台、棚田、夏みかん畑、萩焼、須佐焼、萩反射炉、大板山たたら製鉄遺跡、蒸気饅頭、いりこ工場、かまぼこ工場など
歴史のおたから	人物、出来事、文書、史学など	吉田松陰、高杉晋作、長州ファイブ、萩開府、松下村塾、明治維新など

## (1) 構想期間

構想期間は、令和2（2020）年度を初年度とし、令和9（2027）年度までの8年間です。なお、今後の社会情勢の変化に柔軟に対応するため、必要に応じて見直しを行います。

## (2) 構想の位置づけ

萩まちじゅう博物館構想は、萩市基本ビジョンを支える3つの構想の1つとして位置づけます。



## 第2章 構想の概要と基本理念

### ■社会の状況

我が国の人口は、平成20（2008）年をピークに減少傾向にあり、令和12（2030）年にかけて20代、30代の若い世代が約2割減少するほか、65歳以上が我が国の総人口の3割を超えるなど生産年齢人口の減少が加速することが予測されます。また、人口減少・少子高齢化などにともない、自治会や町内会など、地域のまとまりや自治機能を担ってきたコミュニティも弱体化しています。

このような中、持続可能な地域社会の実現のため、地域資源などの保全・活用や、交流人口・関係人口の創出、コミュニティや経済の活性化に向けた取組など、従来とは異なる新しい発想でまちづくりを進める取組が、全国各地で展開されています。

人口減少・少子高齢化などを背景とした、文化財の滅失や散逸等の防止も緊急の課題となっています。このため、地域における文化財の計画的な保存・活用の促進や、地方文化財保護行政の推進力の強化を図ることを目的に「文化財保護法」が改正され、平成31（2019）年4月に施行されました。また、良好な市街地の環境（歴史的風致）を維持・向上させ、後世に継承するための「歴史まちづくり法<sup>※3</sup>」も平成20（2008）年に施行され、全国各地で取組が行われています。



### ■萩市の状況

萩市は江戸時代の城下町のたたずまいを今に残し、また明治維新胎動の地として、全国に広く知られ、歴史のまち、観光都市としてこれまで発展してきました。

昭和47（1972）年には、萩市独自の歴史的景観保存条例を制定し、市内に残る土堀や武家屋敷を時代の荒波から守るなど、いち早くその保存に取り組んできました。その取組などにより、重要伝統的建造物群保存地区は全国最多の4地区（令和2（2020）年10月時点）となり、日本を代表する町並み保存の先進地となっています。萩市独自の取組である「萩まちじゅう博物館構想」によりこれまで保存・保全された町並みなどは、観光資源として活用されてきました。また、「歴史まちづくり法」に基づく歴史的風致維持向上計画の認定を全国で最初に受け、歴史的建造物の保存・修理を計画的に行っています。

しかしながら、萩市の人口は、昭和30（1955）年の97,744人をピークに減少傾向にあり、平成29（2017）年には48,895人とピーク時に比べ概ね半減しており、将来的には更なる人口減少が予想されます。

また、中山間地域はもとより、市中心部においても高齢化が著しく、全国各地で見られるように、地域のコミュニティ機能は低下しており、文化財施設などの歴史的



※3 「地域における歴史的風致の維持及び向上に関する法律」良好な市街地の環境（歴史的風致）を維持・向上させ、後世に継承するために平成20年に施行。

建造物や伝統的な町並みについてもその保存が困難な状況となっています。

萩市の主要産業である観光業については、旅行形態が団体旅行から個人単位へ、物見遊山型から「もの」や「こと」の体験型へと変わり、さらには外国人観光客への対応が求められるなど、観光ニーズは多様化・高度化してきました。

## ■これまでの「萩まちじゅう博物館構想」の取組と課題

萩は、毛利藩政期260年間に形成された、城下町のたたずまいが今日まで継承されており、「江戸時代の地図がそのまま使えるまち」といわれています。萩の城跡や武家屋敷、維新の志士の旧宅、寺院などは日本を代表する貴重な文化財です。さらには、豊かな自然環境や農村風景などが残されており、その傍らで近世そのままの空間が市民によって住みこなされ、いたるところに息づいています。

平成16（2004）年の萩博物館開館を契機に、それらをまちじゅうに存在する“おたから”としてとらえ、まち全体を屋根のない博物館（萩まちじゅう博物館）としてその保存や活用などを行ってきました。この取組によって、萩の美しい景観や貴重な歴史的建造物、豊かな自然は保存され、市民自らおたからの発見・調査などにより、ふるさとへの愛着と誇りを持って暮らせるまちづくりを行ってきました。また、観光業を中心に萩の発展を支え、世界遺産登録などにつながっていきました。

社会経済環境が目まぐるしく変わる中、未来に残すべきおたからについて、市民はもとより萩を想う方々と共に考えていくことが、これまで以上に重要となっています。おたからの保存にとどまらず、積極的に地域振興に資する活用に結びつけ、そこに住む人の暮らしを豊かにすることが求められています。そのためにも、おたからを活用し、これからのまちづくり、観光地づくりにつなげていく人材・組織の育成が急務であり、今後の萩まちじゅう博物館構想を推進する上で、大きな課題となっています。



# これまでの「萩まちじゅう博物館構想」による基本方針・取組事項・課題

平成16（2004）年度～令和元（2019）年度

	基本方針	取組事項	課題
研究・保存	萩の資源（歴史的環境・自然環境）を市民と市が一体となり研究・保存していきます。 賛同者の信託により、土地や建物などの保全・保存を進めていきます。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・NPO 萩まちじゅう博物館の活動</li> <li>・ワンコイントラスト</li> <li>・歴史的風致維持向上計画</li> <li>・文化財施設保存整備</li> <li>・世界遺産保存整備</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・専門的な調査・研究</li> <li>・協働によるおたからの保存や、モニタリングについての具体的な活動</li> </ul>
展示・情報発信・活用	現地において、正しく展示します。情報発信により、資源の再発見や新たな価値が見出せる仕組みを創ります。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・萩博物館企画展・特別展の開催、文化財施設の公開活用</li> <li>・おたからマップ・データベース公開</li> <li>・まちあるきガイドツアーの企画・商品化</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・観光利用者に関する情報の収集・蓄積・分析</li> <li>・付加価値の創出</li> <li>・構想の理念やおたからを魅力的に表した展示、情報発信</li> <li>・おたからを活用した地域振興（経済活動と新たな活用）</li> <li>・地域の体験プログラムやガイドツアーの一体的な提供の仕組み</li> <li>・市民、事業者の協力による民間施設での展示・情報発信など</li> </ul>
拠点整備と周辺整備	萩博物館（コア）と地域博物館（サテライト）をネットワークで結びます。アクセス道路や発見の小径を整備します。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・コア施設（萩博物館）の整備</li> <li>・サテライト施設（旧山中家、旧小林家等）の整備</li> <li>・アクセス道路の整備</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・整備した施設の活用方法</li> <li>・コアからサテライトへの動線（ネットワーク）の明確化</li> <li>・サテライト施設の知名度向上や民間事業所の参画</li> </ul>
「心のふるさと・萩」のおもてなし	来萩者には「もう一度萩に行きたい」と思われるような、萩市民には「萩に住んで良かった」と思われるような、そんなおもてなしをまちじゅうで推進します。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・各種団体（NPO 萩まちじゅう博物館等）の設立</li> <li>・各種イベント（着物ウィーク in 萩等）の開催</li> <li>・各種検定（萩検定等）の実施</li> <li>・萩の語り部事業</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・学校教育などでのまち博構想の紹介</li> <li>・コーディネーター、地域リーダーの育成</li> <li>・次世代の担い手の確保（新分野、インバウンド）</li> <li>・イベント企画・実施における民間との連携</li> </ul>



NPO 萩まちじゅう博物館の活動



着物ウィーク in 萩

## ■これからの構想の概要と基本理念

萩市基本ビジョンに掲げる『暮らしの豊かさを実感できるまち』を実現するためには、地域の資源や環境を活用し、交流人口の拡大へとつなげ、生きがいと誇りを持ち迎える市民と、そこに惹きつけられる人々が行き交う、活力あるまちづくり・観光地づくりが必要です。

このため、改定する構想では、これまでの取組を継承しつつ、今後の取組を明確にするため、「萩の“おたから”を活かした協働によるまちづくり・観光地づくり」を基本理念に掲げ、より一層、まちじゅうの“おたから”を活かし“おもてなし”を進めます。その上で、4つの基本方針を定め、市民・事業者・行政が協働して、持続可能な地域社会の実現に取り組んでいきます。

## これからの構想の基本理念と基本方針

### 基本理念

萩の“おたから”を活かした  
協働によるまちづくり・観光地づくり



### 基本方針

おたからの再発見・  
保存・活用・魅力発信



おたからを通じた  
多様なコミュニティの形成・  
活動の推進



おたからを活かした  
経済活動の推進



おたからを



活かす人材の育成

# 「萩まちじゅう博物館構想」のこれまでとこれから

## これまで

### 研究・保存

- 自然・文化・産業・歴史の研究
- 歴史的・自然環境の破壊を防止する方策の探求
- 市民と市が一体となり愛着を持った保存の取組

豊富な地域資源を確実に保存する具体的な活動を！

### 展示・情報発信・活用

- 現地において価値を損なわないような展示・情報発信
- 市民が萩を再発見し、新たな価値を見出し活用する仕組みの創出

持続的な取組にするため、経済活動と新たな活用が必要！

### 拠点と周辺整備

- 萩博物館（コア）と地域博物館（サテライト）の整備とネットワーク化
- これらを結ぶアクセス道路、自然・文化・産業・歴史の探索路の整備

整備したものをどう活かしていくかが問われている！

### 「心のふるさと・萩」のおもてなし

- 「もう一度萩に行きたい」と思えるようなおもてなしの推進
- 「萩に住んでよかった」と日々思えるようなおもてなし活動の推進

交流・関係づくり、事業者の参画が大事！

## これから（展開の段階）

### おたからの再発見・保存・活用・魅力発信

- 調査・研究による価値の発見
- 展示、情報・魅力の発信
- モニタリング、自然環境・景観保全による魅力の維持
- おたからの新しい活用

### おたからを通じた多様なコミュニティの形成・活動の推進

- 行事、移住・定住等による交流の場の創造
- ICT※4による利便性を活かした交流の推進
- 各種ツーリズム・体験観光の推進
- 交流施設としての民間施設の活用

### おたからを活かした経済活動の推進

- おたからのブランド化
- 経済的価値の創造
- 地域資源の付加価値化
- 観光地経営の推進

## 萩のおたからを活かした協働によるまちづくり・観光地づくり

### おたからを活かす人材の育成

- 生涯学習を活用した人材の育成
- コーディネーターの育成・確保
- おもてなし人材の育成
- 伝統文化・地場産業の後継者の育成

※4 ICT（Information and Communication Technology）「情報通信技術」

## 第3章 構想を実現させるための取組

### 基本方針

#### おたからの再発見・保存・活用・魅力発信

萩には、自然（海・島・山・河川等）、文化（町並み、生活、祭り等）、産業（地場産業、伝統工芸、農林水産業等）、歴史（人物、出来事、文書等）などの無数のおたからがあります。これらは萩ならではの個性を活かしたまちづくりに欠かせない要素です。おたからの再発見を通じて、市民自身が誇りを持ち、どのような形で未来へ残していくのか、長期的な観点から市民とともに考えます。また、積極的に活用・魅力発信していくことで持続可能なまちづくり・観光地づくりに役立てていきます。

### 施策

#### 調査・研究による価値の発見

萩の資源であり魅力であるおたからを、地域の活動団体などと共に調査・研究します。

その価値や物語を再認識し、市民の誇りを醸成し、価値を発見することで、活用につなげていきます。

また、専門的な知見・技術により、自然環境・景観などの破壊や、文化活動などの衰退を未然に防止する方策を探求します。



活動団体による調査・研究

#### 展示、情報・魅力の発信

おたからの価値を損なわないように、現地において保全し、正しく展示します。

あわせて中核施設である萩博物館では、それらの情報や魅力発信を行い、現地へ誘導する役割を担います。

さらには、効果的な演出や広報を行い、市民や観光客などが萩の魅力を再発見し、その新たな価値を見出すことができるように努めます。



萩博物館の展示風景

## モニタリング、自然環境・景観保全による魅力の維持

未来に残すべきおたからについて、確実に保存・保全を行い、それらの魅力・価値を維持していくためのモニタリング(監視)を行います。

また、良好な景観、歴史的まちなみ、自然環境の保全のため、国の制度等を活用し、保全・形成、協働による自然環境・景観保全活動などを行います。



保全された景観

## おたからの新しい活用

ユニークベニュー(特別な会場での特別な体験)など、おたからを活用した、新たなイベントや市民活動を推進します。

萩の自然・文化・産業・歴史などにふれることができるようにすることで、参加者の満足度を高めるとともに、おたからの知名度を向上させ、観光客の誘致や経済波及効果を目指します。



文化財を活用したコンサート



### ワンコイントラスト運動(平成17(2005)年2月から実施)

萩市のおたからの保存について、広く他地域又は他国の人々の理解を得ながら賛同の輪を広げ、ワンコイントラスト(100円信託)により、歴史的環境及び自然環境の保存、修復、活用等を行っています。

これまでに、井上勝(日本の鉄道之父)旧宅門、猿田彦面山車、平安古備組のお道具類などの修復等を行ってきました。



井上勝旧宅門



猿田彦面山車

## 基本方針

### おたからを通じた多様なコミュニティの形成・活動の推進

おたからは、まち全体・各地域に広く存在することから、それらを活かすためには各地域のコミュニティが活性化し、一丸となって活用を進めていく必要があります。また逆におたからの活用を進めることにより、コミュニティが活性化し、にぎわいがうまれてくる場合もあります。近年、コミュニティ機能が低下していることもあり、さまざまな交流の場を創造する施策や移住・定住により、活性化を推進していきます。

## 施策

### 行事、移住・定住等による交流の場の創造

地域で行われている伝統行事に加え、他地域や都市部との交流行事の開催を積極的に推進し、地域内外での交流の場を創造します。

また、住みやすい環境づくりに努め、移住・定住を推進します。

それらの施策により、人と人とのつながりが生まれ、コミュニティが活性化されることで、持続可能な地域社会の形成につなげます。



伝統行事

### ICTによる利便性を活かした交流の推進

ICTを活用し、地域内外での交流を増やし、関係人口やコミュニティの人数増につなげます。

一堂に会さずとも、地域の課題解決やまちづくりを行える場づくりを推進し、また、地域の魅力を各個人それぞれが発信することができる仕組みづくりを行います。



ICTの活用

## 各種ツーリズム・体験観光の推進

コーディネーターや農林漁家などと協力し、自然のおたからを活用した、各種ツーリズム・体験観光を推進することによりコミュニティの活性化を図ります。

体験スポットの情報発信、農林水産物やジオパーク活動などを組み合わせた体験メニューの充実や支援の仕組みを図ります。



体験観光

## 交流施設としての民間施設の活用

市民・事業者と協力し、民間施設を観光利便施設やおたからの情報展示場など交流施設として開放することを推進します。

また、観光客や市民にそれらを活用してもらうよう、観光マップやインターネットを通じて紹介します。

そして、施設同士が連携し、観光客が周遊できるよう推進します。



民間施設の活用

### NPO萩まちじゅう博物館

萩のおたからを再発見し、守り育て、次世代に継承していくことを目的に市民有志で平成16(2004)年6月に設立されました。

#### 【主な活動】

- ・中核施設である萩博物館の運営  
受付、館内ガイド、清掃、守衛、レストラン・ショップの運営。  
レストランで萩の食材を使ったオリジナル料理を提供、ミュージアムショップで萩の古地図などのオリジナルグッズの販売など独自の活動を行っています。
- ・萩まちじゅう博物館を市民レベルで推進  
歴史資料の掘り起こし・古写真の整理・生活文化の研究等、博物館学芸員のサポート活動。  
古地図を使ったまち歩きツアーの実施など。



萩博物館レストラン



市民向けの出前講座



## 基本方針

### おたからを活かした経済活動の推進

人口減少・少子高齢化が進む中、持続可能なまちづくりを行うためには、地域の産業を発展させ、そこに住む人々が経済的に豊かになり、継続的にその地に住み続けることが必要となります。おたからを産業などの経済活動と結び付けて活用することにより、その効果はより高いものとなります。発見・発掘したおたからの認知度を高め、観光などの地域の産業を、より一層活かす取組を行い、経済の活性化につなげます。

## 施策

### おたからのブランド化

おたからには、既に認知度が高く、観光資源等となっているものもありますが、新たに発見・発掘されたものについては認知度も低く、その魅力を活かしきれないものがあります。

おたからについて、幅広く認知度を高め、萩ならではの資源として周知するためにブランド化に取り組みます。

またブランド化されたおたからは、しっかりと地場産業で活かし、経済発展につなげて行きます。



ブランド化された萩の夏みかん

### 経済的価値の創造

おたからやコミュニティなど、本構想により推進・育成されたものを、経済的価値や活動を生み出すものとするため、商品化や産業の担い手となるよう育成支援を行っていきます。

商品化にあたっては、前述のブランド化の取組とあわせ、おたからの独自性や魅力を活かすとともに、品質を高め経済的効果が高いものを目指します。

コミュニティについても、活動の一環が経済活動にも結び付き、人々が経済的に豊かになることを目指します。



商品化された萩の夏みかん

## 地域資源の付加価値化

市民・事業者と連携し、これまで活用が難しかった、空き家、空き施設などの有効活用を推進し、地域資源の付加価値化に取り組みます。

そのほかにも数多く存在する地域資源の可能性を様々な角度から探り、有効に活用する取組を推進します。



空き家の活用

## 観光地経営の推進

観光産業は、萩の経済を支える主要産業の一つとなっています。

近年観光需要は個人旅行が主流となり、多様化する旅行形態に対応するため、観光地経営はますます重要なものとなってきています。

そのため、おたからを滞在・体験型観光やインバウンドなどに活用し、多様な需要に対応できる観光地経営を目指します。



主要産業である観光業

### まち歩きツアーの開催

毛利36万石の城下町として栄えた萩市は、今でも江戸時代の地図がそのまま使えるほど、昔の町割りが残っています。そんな町並みを知ってもらうため、ガイド付きのまち歩きツアーを開催して皆さんをおもてなししています。ガイドブックには載っていない隠されたストーリーを知ることができます。

古地図を片手に歴史的な町並みを歩くツアーや、萩に住んでいる人でも驚き感心するような、ちょっとユニークな視点でのまち歩き、萩の名産品に舌鼓を打つ商店街の食べ歩き、なぞ解きをしながら萩のまちを散策するコースなど、様々なコースがあります。



## 基本方針

### おたからを活かす人材の育成

おたからは個性あるまちづくりに欠かせない要素ですが、実際に前述した施策を実施し、まちづくりを行っていくのはそこに住む“人”たちです。しかしながら人材や後継者不足は以前より深刻化してきています。そのため、本構想の基本理念や取組を積極的に市民や事業者  
にPRし、参加・参画の機会を増やし、活動や取組を支援します。市民・事業者・行政が協働で本構想を推進し、おたからを活かす人材を育成します。

## 施策

### 生涯学習を活用した人材の育成

ふるさとを学び、誇りと愛着をもつ子どもを育てる、ふるさと学習を推進するとともに、地域活動や祭り等の行事、ボランティア活動への参加を促し、人々のおもてなし力の向上、地域に貢献したいという心を醸成します。

また、地域のおたからを活用した体験活動などを推進し、自然や歴史への興味、地場産業や伝統文化への関心等を高めます。



ふるさと学習

### コーディネーターの育成・確保

人々を結び付け、おたからを活用したまちづくりを仕掛けていく、人材・組織（コーディネーター）を育成・確保します。

コーディネーターを育成・確保するため、生涯学習、地域おこし協力隊制度、関係人口構築等により、地域内外からその人材を求めます。



人材・組織の育成

## おもてなし人材の育成

おたからを、観光客や市民により知ってもらい楽しんでもらうため、それらをわかりやすく説明し、その魅力を発信することができる人材を育成します。

そのためにも NPO など活動団体と協力し、研修やご当地検定などを行います。

また、心のこもったおもてなしを行い、インバウンドにも対応した、満足度の高い地域を目指すとともに、市民自身の喜びや幸福につながるように支援を行っていきます。



心のこもったおもてなし

## 伝統文化・地場産業の後継者の育成

地域の祭等で披露される伝統文化、萩焼を始めとする工芸品や夏みかん、瀬つきあじなどの農林水産物は萩ならではの魅力あるおたからといえます。

これら産業のおたからを、積極的に教育などに取り入れ、幼いころよりその魅力に触れ、将来の後継者につながるような取組を行います。

またコミュニティ・コーディネーター・生産者が連携し、後継者が活動しやすい環境となるような取組を推進します。



伝統文化・地場産業の後継者

### 萩検定の実施

「萩ものしり博士検定」(平成 17 (2005) 年度～平成 30 (2018) 年度)、「萩・幕末維新検定」(平成 25 (2013) 年度～平成 29 (2017) 年度)を統合し、新たに令和元 (2019) 年度から「萩検定」として装いも新たに実施しています。

まちじゅうにある豊かな自然・文化・産業・歴史のおたからと、それにまつわる物語を楽しく学びながら萩のことをより広く深く知っていただき、新たな萩ファンを増やすために実施しています。合格者有志で結成した「萩ものしり博士の会」では、自主事業として、現地研修や研究発表など活発に活動中です。

また、博士の合格者のうち、10 か月間の講座を修了した方々が「萩の語り部」として、歴史講座などを開催しています。



まち博  
トピックス



## 第4章 構想の着実な推進に向けて

### 市民・事業者・行政の協働、外部人材による協力・支援

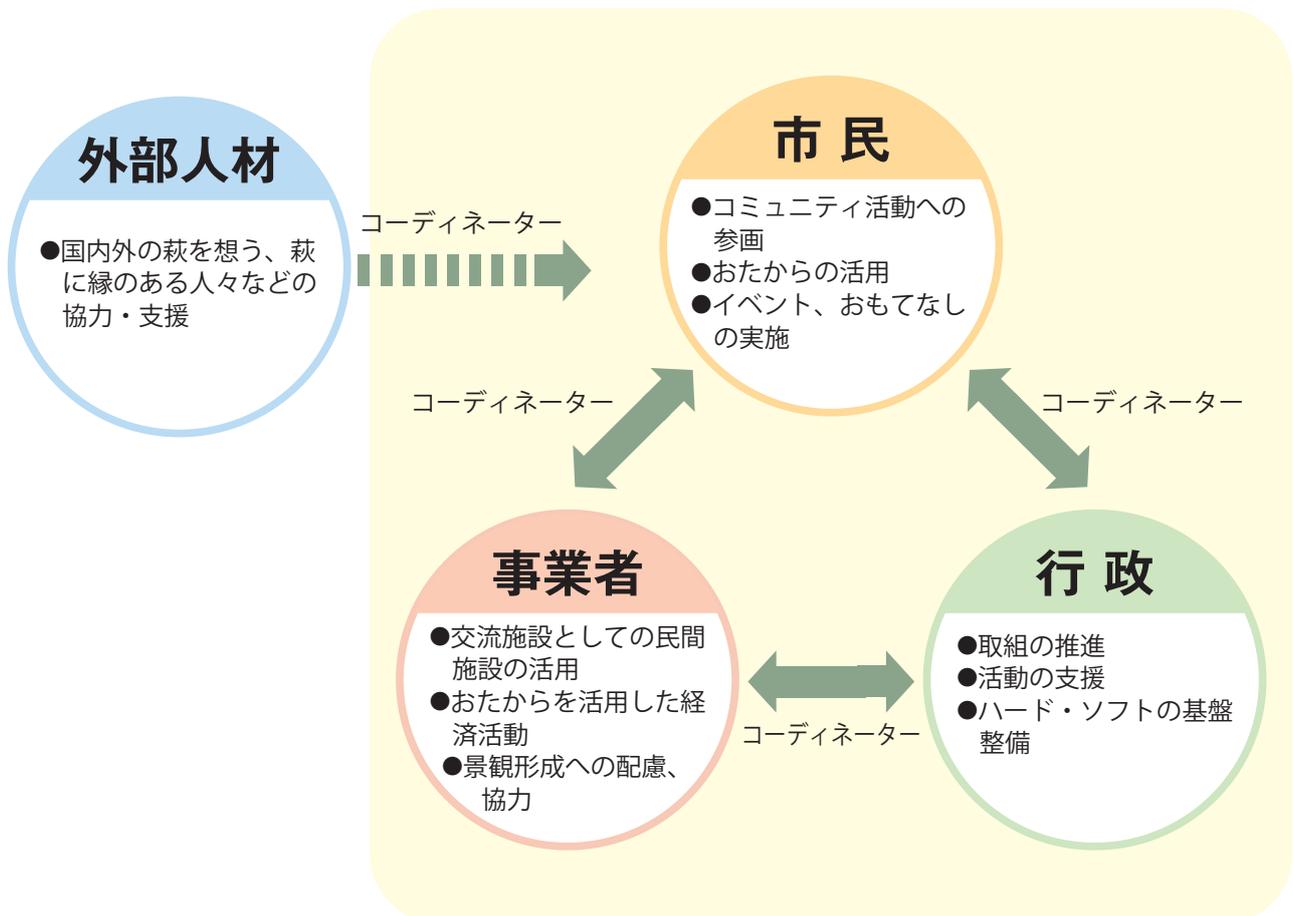
本構想の基本理念である「萩の“おたから”を活かした協働によるまちづくり・観光地づくり」を目指すためには、市民・事業者・行政の協働が不可欠です。

市民には、コミュニティ活動への参画、日常のおたからの活用、イベントやおもてなしの実施などの役割が求められます。事業者には、交流施設としての民間施設の活用、おたからを活用した経済活動、景観形成への配慮・協力などの役割が求められます。そして、行政には、本構想に基づく取組を推進し、活動を支援するとともに、ハード・ソフトの基盤整備などの役割が求められます。

一方で、人口減少や少子高齢化により、地域の担い手不足が慢性化する中で、国内外の萩を想う人々や萩に縁のある人々などの協力・支援も不可欠となっています。

外部人材を活用するとともに、それぞれの活動を結ぶコーディネーターを確保し、本構想の基本理念を共有しつつ、市民・事業者・行政の連携をより一層深め、持続可能なまちづくり・観光地づくりを目指します。

### 協働のイメージ

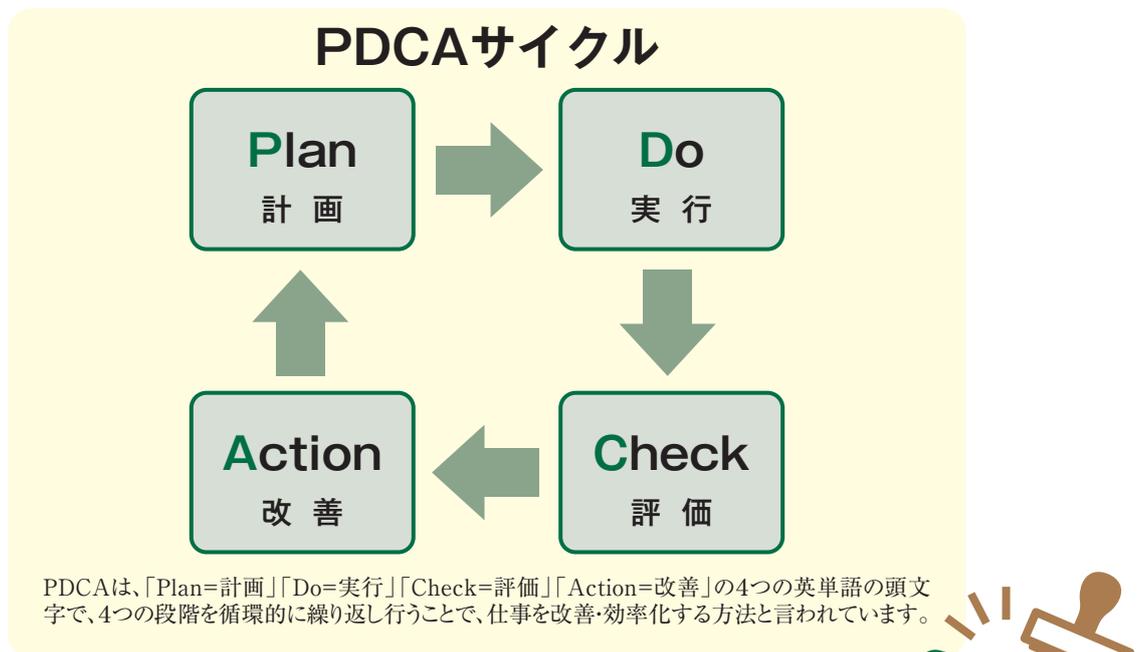


## PDCA サイクル

構想の着実な推進のためには、進行管理を行うとともに、進捗状況やその成果について検証し、施策や取組内容等の見直しを行うことが必要です。

そこで構想に基づく基本計画・行動計画を策定し、計画には構想推進のためのより具体的な個別事項を掲載します。また、PDCAサイクルの考え方にに基づき、施策の実施状況や効果について点検・評価、見直し・改善を行い、翌年度以降の施策の展開に反映します。

進捗状況については、行政や関係団体、地域の代表者で構成される「萩まちじゅう博物館推進委員会」において進捗状況をチェックするとともに、本委員会における意見を施策の内容の見直し・改善などに反映します。



### 萩まちじゅう博物館文化遺産活用事業

地域のおたから情報をデータベース化し、それらの情報を活用していくことを目的とした「萩まちじゅう博物館文化遺産活用事業」に取り組んでいます。

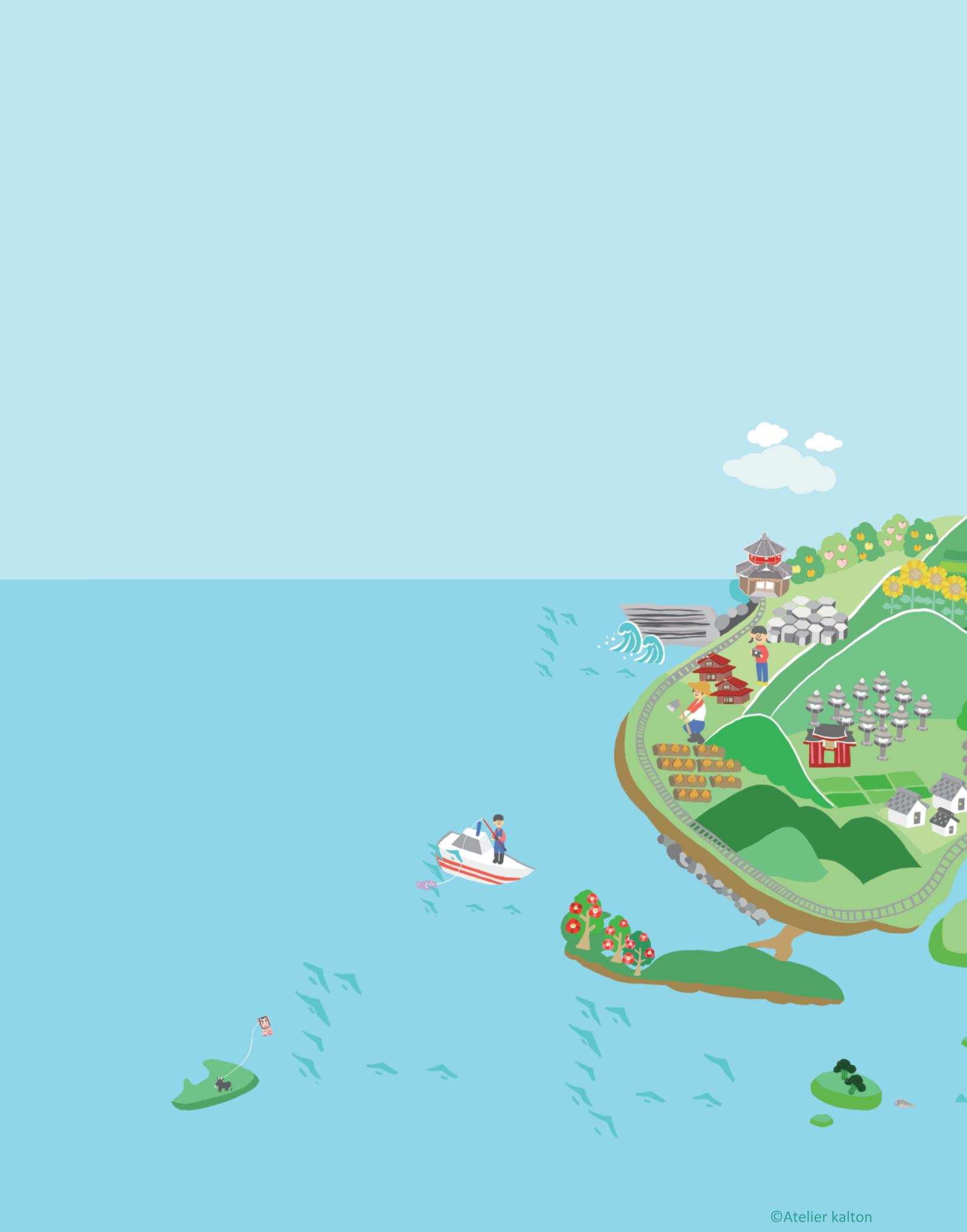
地域ごとに広く存在するおたからを調査し紹介する「おたからマップ」を作成しています。平成25(2013)年度から実施し、23種類(令和2(2020)年10月時点)のおたからマップを発行しています。

また、地域のおたからに親しむための地域交流イベントの開催や「萩観光写真」や「萩の人物」など、萩の自然・文化・産業・歴史に関する情報をデータベース化して、パソコンやスマートフォンから閲覧できるように整理しています。



地域交流イベントの様子





©Atelier kalton



HagiMachijyuHakubutsukan  
萩まちじゅう博物館